

# 藤卷正己教授 略歴 主要著書・論文目録

## 略 歴

### 学 歴

- 1951年9月 新潟県中頸城郡板倉町（現・上越市）に生まれる  
1974年3月 立命館大学文学部地理学科地理学専攻 卒業  
1976年3月 立命館大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻 修了  
1979年3月 立命館大学大学院文学研究科博士課程地理学専攻 単位取得満期退学

### 職 歴

- 1979年4月 天理大学教養部 講師（～1985年3月まで）  
1985年4月 天理大学教養部 助教授（～1996年3月まで）  
1996年4月 天理大学教養部 教授（～1998年3月まで）  
1998年4月 立命館大学文学部 教授  
2009年9月 マレーシア科学大学人文学院 (Universiti Sains Malaysia, School of Humanities: Penang, Malaysia) 客員教授（～2010年3月まで）  
2011年3月 上海師範大学中日人文地理与観光研究所特聘研究員  
2013年4月 和歌山大学観光教育研究アドバイザー  
2014年8月 スルタン・ザイナル・アビディン大学 (Universiti Sultan Zainal Abidin: Kuala Terengganu, Malaysia) 訪問教授

### 立命館大学役職

- 2002年4月 立命館大学文学部調査委員長（～2003年3月まで）  
2003年4月 立命館大学総合基礎教育センター副センター長（～2003年9月まで）  
2006年4月 立命館大学文学部副学部長（～2008年3月まで）  
2010年4月 立命館大学教養教育センター長（～2014年3月まで）  
2014年4月 立命館大学文学部長（理事・評議員）（～2017年3月まで）

### 非常勤講師先（五十音順）

大阪市立大学文学部、京都大学文学部、関西学院大学文学部、天理大学国際文化学部、富山大学文学部、奈良教育大学教育学部、奈良女子大学文学部、佛教大学文学部、立命館大学文学部・国際関係学部

### 学会役職

観光学術学会副会長（理事・評議員）、人文地理学会理事（企画担当・集会担当）、人文地理学会評議員・代議員、日本地理学会代議員

## 主要研究業績

### 1 マレーシアなど開発途上世界の都市および都市化に関する研究

- ・「低開発国都市における低所得者層の居住形態と住宅政策－D.Drakakis-Smith (1981) “Urbanization, Housing and the Development Process” の紹介と検討－」、天理大学学報 136、1982.
- ・「低開発国の都市規模分布研究再考」、天理大学学報 141、1984.
- ・「都市規模分布論の低開発国への適用をめぐる諸問題」、天理大学学報 143、1984.
- ・「都市の順位・規模モデル」・「発展途上国の都市化」、(坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』、大明堂)、1985.
- ・「ブミプトラ政策と都市社会変動－多民族都市クアラルンプルのスクォッター社会－」、(アジア地理研究会編『変貌するアジア－NIEs・ASEANの開発と地域変容－』古今書院)、1990.
- ・「『都市の村人』論再考－開発途上世界都市化研究の回顧と展望－」、天理大学学報 174、1993.
- ・「『都市の村人』考－東南アジア都市研究から眺むれば－」、(森栗茂一編著『都市人の発見』木耳社)、1993.
- ・「東南アジアにおける都市スラムの居住環境」、(天理大学おやさと研究所『環境コスモロジーを求めて－人・都市・倫理－』、天理大学おやさと研究所)、1996.
- ・「熱帯のメトロポリス クアラルンプル断章－スクォッター都市から世界都市へ?－」、地域研究論集(国立民族博物館) 5-2、2003.
- ・「1970年代におけるクアラルンプルの社会地理－Dietrich Kühne” Vielvölkergesellschaft zwischen Dorf und Metropole: Fortentwicklung und neue Wege der Urbanisation in Malaysia (1970-1980)” の紹介と検討－」、立命館地理学 17、2005.
- ・「トランスナショナル都市化するクアラルンプル－変貌する熱帯のメトロポリスの民族景観－」、立命館地理学 19、2007.
- ・「『マハティールの都市』クアラルンプル－生産されるスペクタクルなツーリズムスケープ－」、立命館大学人文科学研究紀要 93、2009.
- ・「開発途上世界の大都市圏」、(富田和暁・藤井正編著『新版図説大都市圏』、古今書院)、2010 <初版 2001 >.
- ・‘Ninety Years of Urbanization in Malaysia: A Geographical Investigation of Its Trends and Characteristics’, *Ritsumeikan Journal of Social Sciences and Humanities* 4, 2012 (Usman Yaakob, Tarmiji Masron と共著).
- ・「発展途上国の首位都市」、(人文地理学会編『人文地理学事典』、丸善出版)、2013.
- ・「途上国の都市化」、(藤井正・神谷浩夫編著『よくわかる都市地理学』、ミネルヴァ書房)、2014.

### 2 マレーシア・台湾におけるスクォッター、先住民族、外国人労働者等周辺的社会集団に関する研究

- ・「クアラルンプールのスクォッター集落」、地理(古今書院) 31-6、1986.
- ・「マレーシアの都市スクォッターと飽食日本人の『人並みの暮らし』」、天理大学学報 157、1988.
- ・「クアラルンプールのあるインド系スクォッター集落－その中間調査報告：フィールド・ノートより－」、天理大学学報 160、1989.

- ・「都市スコッターの政治社会論－半島マレーシアの『対立の構図』との脈絡において－」、南方文化（天理南方文化研究会）21、1994.
- ・「クアラルンプルの生きられたスコッター・カンボン－1980年代マレーシア都市下層社会の風景－」、(江口信清編『「貧困の文化」再考』、有斐閣)、1997.
- ・「台湾都市原住民問題とその背景－魯凱族の原郷、屏東県霧台郷の『風景』－」、天理台湾学会年報7、1998.
- ・「[覚書] クアラルンプル都市下層民に対する「外部者」の眼差し－新聞記事に描かれた都市下層民像－」、(山本勇次編『スラム地区住民の適応に関する比較研究』、(平成10・11年度科学研究費補助金[基盤研究(A)(2)]研究成果報告書、大阪国際大学)、2000.
- ・「1990年代クアラルンプルのスコッター問題と再定住政策」、(大阪市立大学経済研究所監修、生田真人・松澤俊雄編『アジアの大都市[3]クアラルンプル・シンガポール』、日本評論社)、2000.
- ・「クアラルンプル大都市地域における外国系スコッター」、立命館地理学12、2000.
- ・『生活世界としての「スラム」－外部者の言説・住民の肉声－』、古今書院)、2001(編著)。「第3章 クアラルンプルの都市美化政策とスコッター－新聞記事に描かれたスコッター・イメージ－」
- ・‘Squatter Settlements by Foreign Workers in The Kuala Lumpur Metropolitan Area- A Preliminary Consideration-’, (Umehara, H. ed., *Agrarian Transformation and Areal Differentiation in Globalizing Southeast Asia: Proceedings of RU-CAAS Symposium held at Rikkyo University on November 1-2, 2002*), 2003.
- ・「グローバル化するクアラルンプル周辺地域のオランアスリ－半島マレーシア先住民社会の現在と彼らの場所をめぐるせめぎあい－」、立命館文学593、2006.
- ・『マレーシアにおける貧困問題の地域的・民族集団的多様性に関する研究』(平成18年度～20年度科学研究費補助金[基盤研究(B)]研究成果報告書、立命館大学文学部)、2009(編著)。「第1章 マレーシアにおける貧困問題の地域的・民族集団的多様性」・「第3章 クアラルンプルのアンダークラス－スコッター・オランアスリ・外国人労働者－」
- ・‘Orang Asli in Peninsular Malaysia: Population, Spatial Distribution and Socio-Economic Condition’, *Ritsumeikan Journal of Social Sciences and Humanities* 6, 2013 (Tarmiji Masron, Norhasimah Ismail と共著).
- ・『多民族国家マレーシアの外国人労働者に関する学際的総合的研究』、(平成25年度科学研究費助成事業[基盤研究(B)]実績報告書)、2015(編著)。 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24401015/>

### 3 マレーシア・台湾におけるツーリズムに関する研究

- ・「マレーシアにおけるツーリズムの展開とオランアスリ社会－キャメロンハイランド中間調査報告－」、立命館大学人文科学研究所紀要91、2008.
- ・『グローバル化とアジアの観光－他者理解の旅へ－』、ナカニシヤ出版)、2009(江口信清と共編著)。「第10章 キャメロンハイランドのオランアスリ・ツーリズムの可能性－貧困克服のための半島部マレーシア先住少数民族観光をめぐる－」・「第15章 他者理解の旅へ」

- ・『貧困の超克とツーリズム』、明石書店、2010（江口信清と共編著）。「第8章 ツーリズム・マレーシアに動員されるオランアスリー-必要に応じて可視化されるマレー半島の先住民族-」
- ・「ツーリズム [in] マレーシアの心象地理-ツーリズムスケープの政治社会地理学的考察-」、立命館大学人文科学研究紀要 95、2010.
- ・『観光研究レファレンス・データベース [日本編]』、ナカニシヤ出版、2011（江口信清と共編著）。「12 政治と観光」
- ・*International Tourist Movements and Patterns in Sabah 1988-2013*, Penerbit Universiti Pendidikan Sultan Idris: Tanjong Malim, Perak, Malaysia, 2014 (Tarmiji Masron, Badaruddin Mohamed, Azizan Marzuki, Norhasimah Ismail と共著).
- ・「マレーシアにおける遺産観光と活用される植民地経験-再資源化されるコロニアリティ、ハイブリディティ-」、(天理大学アメリカス学会編『アメリカスのまなざし-再魔術化される観光-』、天理大学出版部)、2014.
- ・「台湾原住民族原郷におけるツーリズムと自然災害-黄昏の仁愛郷廬山温泉をめぐる-」、(吉越昭久編『災害の地理学』、文理閣)、2014.
- ・「遺産観光ブームに沸くマラッカのツーリズムスケープ瞥見-過熱する観光開発・大衆観光地化・テーマパーク化-」、(立命館大学地理学教室編『観光の地理学』、文理閣)、2015.
- ・「世界遺産都市ジョージタウンの変容するツーリズムスケープ-歴史遺産地区の観光化をめぐるせめぎあい-」、立命館文学 645、2016.

#### 4 マレーシアなど東南アジアの地域研究

- ・「グローバリズム時代における『第三世界の地理学』」、大学時報（日本私立大学連盟）211、1990.
- ・「マレーシアにおけるエスニシティ・クラス・イデオロギー」、研究報告会報（天理大学おやさど研究所）9、1993.
- ・『異文化を「知る」ための方法』、古今書院、1996（住原則也・関雄二と共編著）。「第1章 異文化研究の進め方」、「第5章 多民族都市クアラルンプルのスクォッター・スラム社会-都市下層の生きられる生活空間-」
- ・『異文化を「知る」ための方法<第2版>』、古今書院、1998（住原則也・関雄二と共編著）.
- ・「東南アジアの国民国家と地域間対立」、地理（古今書院）44-8、1999.
- ・『現代東南アジア入門』、古今書院、2003（瀬川真平と共編著）。「第2章 東南アジアの国民国家とエスノナショナリズム-インドネシア・フィリピン・タイ・マレーシア-」・「第9章 東南アジアの都市化状況と都市問題」
- ・「『マハティールの国』マレーシアのグローバリズム／ローカリズムの風景-『マレーシア的なもの』の創造をめぐる-」、(天理大学創立 80 周年記念行事・天理大学国際文化学部公開シンポジウム報告書『グローバリゼーションと地域文化』、天理大学)、2005.
- ・「マレーシアにおけるアカデミック地理学のポストコロニアルな状況?」、(千田稔編『アジアの時代の地理学-伝統と変革-』、古今書院)、2008.
- ・『現代東南アジア入門 (改訂版)』、古今書院、2009（瀬川真平と共編著）。「第2章 東南アジアの国民国家とエスノナショナリズム-インドネシア・フィリピン・タイ・マレーシア-」・「第9章 グローバリゼーション時代における東南アジアの都市化の重奏的风景」

- ・『朝倉世界地理講座－大地と人間の物語－3 東南アジア』、朝倉書店、2009（春山成子・野間晴雄と共編著）。「5-5 グローバリゼーション時代の都市のランドスケープ・エスノスケープ－『マハティールの都市』クアラルンプルを読み解く－」・「6-1 反逆する『辺境』／ゆらぐ国民国家－東南アジア世界の政治地理的風景を読み解く－」・「6-4 モザイク国家マレーシアにおける対立の構図－仕切り直される国民統合政策－」